

●三位一体後第十九主日

泉のほとり

今月の詩編「第十四編」

どうか、イスラエルの救いが

シオンから起こるように。

主が御自分の民、

捕われ人を連れ帰られるとき

ヤコブは喜び躍り

イスラエルは喜び祝うであらう。



主の前にへりくだりなさい

「同じ泉の穴から、甘い水と苦い水が出るだろうか、いちじくの木がオリブの実を結ぶだろうか」との問いかけから、教師ヤコブは兄弟たちに「あなたがたがねたみ深く、利己的であるなら、自分を誇ったりして、真実に対し、偽ってはない」と、彼ら自身の泉の穴から何が出てくるのか、偽りなき心で見えるようにとしました。「利己心、妬みは、上から出たものではなく、地上のもの、この世のもの、悪魔から出たものです」と述べ、同じ泉の穴から「神からのもの」と「悪魔からのもの」が一緒に出ないということを明確にしたのです。

しかし、現れている教会の現状は「何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いが起こるのですか。あなたがた自身の内部で争い合う欲望が、その原因ではありませんか」ということで、上からの知恵ではありませんでした。そこで、ヤコブは「あなたがたは、欲しても得られず、人を殺します。また、熱望しても手に入れることができず、争ったり戦ったりします」と告げます。

注目すべきは、この世に根付いたその欲する心が神に向けられず、人に向けられたことです。人を殺す、妬む、戦い、争うと。神に目を向けず、その矛先が人に向けられること自体、その心に神はなく、人のこと、この世のことしか見ていない、根本からずれていることを教えているのです。

ヤコブはそのような現状の兄弟たちに激しいことばで警告します。「姦淫の者たち、世の友となることが、神の敵となることだとは知らないのか」と。夫である神との関係を裏切り、違う相手を愛し求めることに例えているのです。表向きには祈りも礼拝もしている、聖書も読んでいる。しかし、夫への心がない。神を夫とする神の国での「純真、柔和、偽りなき心」の生活を捨て、世に属し、悪魔からの誘いに自分の欲するがまま行く様子が、殺し、妬み、戦い、争うという言葉に表されているのです。

それがいかに神を傷つけることか。それが「姦淫の者たち」という呼びかけに、次に出てくる「神のねたみ」というこ

とばに表されています。「神は人に住ませた霊を、ねたみを持って切望している」と話しました。神は人をご自分にかたどり造られ、その「人」が本来あるところを捨てて歩む、その立ち返りを切望する神の御心、またそれに対する激しい御怒りが「神のねたみ」と表されているのです。

ヤコブはその激しい「神のねたみ」が「高慢な者を敵とされる」と示しました。しかし、「謙遜な者には恵みをお与えになる」と教えるのです。これまで述べてきた「妬みや利己心、秩序の乱れ、不和、争い、自己中心による欲望」には、人の高ぶりが根底にあります。

今も「神は高慢な者を敵とされる。しかし、謙遜な者に恵みをお与えになる」、これは昨日も今日も明日も変わらない真理です。ヤコブが次に「だから」、「神に服従し、悪魔に反抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げて行きます」と述べているのは、人の高ぶりは悪魔を招くもの、謙遜こそ、神からの恵みを受けるのみならず、悪魔に対抗する知恵だからです。

最後にヤコブ先生は「神に近づきなさい。そうすれば、神は近づいてくださいます。罪人たち、手を清めなさい。心の定まらない者たち、心を清めなさい。悲しみ、嘆き、泣きなさい。笑いを悲しみに変え、喜びを怒いに変えなさい。主の前にへりくだりなさい」と述べました。「心の定まらない者たち」とは正確には「二心の者たち」です。同じ泉の穴から神への賛美と人への呪いが一緒に出ている。神を信じると言いながら、行いはない。キリストを通してこの世から贖われていながら、心は神より、この世のものを慕い求める姦淫の心です。

「悲しみ、嘆き、泣きなさい」と語りかけられる教師ヤコブのことばから、彼自身の兄弟たちへの悲しみ、嘆き、涙を見るのです。キリストの悲しみをも見るのです。その悲しみを喜びへと変えるものは何でしょうか。へりくだった心です。嘆くべきことに真に嘆き、笑いを悲しみに変える、そのへりくだった心は切望しておられる神の喜びとなるもの、神のねたみを宥め、限らない恵みを受ける心です。

2025年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

○午後二時から保川幹代姉の葬儀を礼拝堂で執り行います。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会を第二・三シオンルームで行います。

《祈りの会より》

本日、祈りの会を開きますので、皆さんご参加ください。一二時三〇分開始予定、場所は三Fの旧副牧師室です。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇十四篇】 指揮者によつて。ダビデの詩。

神を知らぬ者は心に言う

「神などない」と。

人々は腐敗している。

忌むべき行いをする。善を行う者はいない。

主は天から人の子らを見渡し、探される

目覚めた人、神を求める人はいないか、と。

だれもかれも背き去つた。皆ともに、汚れている。

善を行う者はいない。ひとりもない。

悪を行う者は知っているはずではないか。

パンを食らうかのように

わたしの民を食らい

主を呼び求めることをしない者よ。

そのゆえにこそ、大いに恐れるがよい。

神は従う人々の群れにいます。

貧しい人の計らいをお前たちが挫折させても

主は必ず、避けどころとなつてくださる。

どうか、イスラエルの救いが

シオンから起こるように。

〔司・会〕

主が御自分の民、

捕われ人を連れ帰られるとき

ヤコブは喜び躍り

イスラエルは喜び祝つてであらう。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「心の中に何かあるか」

聖書 使徒16章16～25節

説教者 宮間彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「神は遠く離れてはおられない」

聖書 使徒17章22～28節

説教者 宮間彰広兄

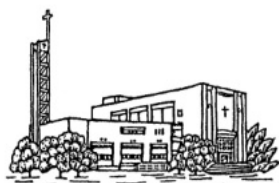
●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讃美歌 533番 279番

説教 「自分の分を越さない信仰」

聖書 ヤコブ4章11～17節

説教者 黄允湜牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 525番 151番
説教 「死を超える希望の源」
聖書 ルカ7章11～17節(新約 P.115)
司式 山下 純一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 吉村 和雄 名誉牧師

前奏曲「神はわがやぐら」 S.カルク=エラート

○讃美歌525番

1.めぐみふかき 主のほか

たれかわれを なぐさめん ※

(※くりかえし)

わが主 わが神 恵みたまえ
ただ頼りなく わが身を

2.わが主ともに いまさば

あくまわれを いかにせん ※

3.きよきみむね おしええ

はたしたまえ みちかい ※

4.とうとき主よ われをば

きみのものと したまえ ※

アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

○讃美歌151番

1.よろずの民 よろこべや

主イエス陰府にかちませば
死のちからはや失せはて
ひとのいのちかぎりなし

2.主はさかえの御座にまし

みつかいたち妙にうとう
「主イエス死にかちたまえば
人はとわに生くべし」と

3.明日を待たぬいのちもて

なやみたえぬ世に住めば
たえがたくなしかるを
今は死なぬ身となりぬ

4.なみだの谷 雨はれて

み国のみちのどかなり
いざうたえ しらべたかく
主のみさかえ 世のさちを

アーメン

聖餐曲「愛しまつる神によりて」 D.ブックスターデ

後奏曲「聖なるみ神はこの殿にいます」 S.カルク=エラート